

歓迎遠足

(小中高) 全

キャリア教育の視点から身に付けさせたい基礎的・汎用的能力

人間関係形成・社会形成能力

- (小) 新入生を温かく歓迎するとともに、たくさんの人との関わりを深める。
- (中) 小中高の交流を通して、進んでコミュニケーションを図る態度を育てる。
- (高) 新入生の入学を温かく歓迎し、学校間、学年間、学級間の親睦を深める。



たくましさの育成

主体的行動		他者に働きかける力		
	具体的な姿	成果と課題	具体的な姿	成果と課題
小	一年生に自分から進んで声をかけたり一緒に活動したりする。	○歓迎集会では、1年生の名前を呼んで関わろうとする姿が見られた。 ○雨天のため校内遠足となったが、新入生自己紹介の時には拍手をして、全校で1年生を温かく迎えようとする姿が見られた。	他学年や中学生、高校生、先生方に声を掛けたり一緒に活動したりすることができる。	○中高生の動き方がスムーズで、楽しい時間を過ごすことができた。 ○一日を通してたくさんの人と関わり、楽しもうとする姿が見られた。 ▲お弁当を食べ終わった後、まだ食べている人がいる中、どのように過ごすかの事前指導が必要だった。
中	小学生の先輩として優しく接しようとする。	○歓迎行事において、中学校生徒会役員が企画進行を行い、小中高が交流できるような実践を行うことができた。 ○小学生に対し、一緒に活動できるよう積極的に話しかける姿があり、主体的な取組ができた。	他の校種の児童生徒、先生に進んで話しかけ、活動を共にできる。	○前年度と同じく雨のため、体育館での歓迎行事となったが、それぞれの校種で交流ができるように工夫し、楽しく過ごすことができた。 ○生徒会役員が積極的に会を盛り上げ、校種を超えた活動が見られ、思い出に残る行事となった。
高	新入生を迎えるために必要な行動や関わり方を考え、行動に移そうとする。	○中学生が企画してくれた生徒会行事に積極的に参加し、緊張を和らげたり、会話を盛り上げたりするなど、上級生としての関わりができた。 ○高校1年生は、自らも新入生として、オリジナルのある自己紹介を考案し、自己表現ができた。	小中学生に進んで話しかける等、交流する相手になることで全体の親睦を深めることができる。	○歓迎行事では、小中学生が自己紹介をしやすいように、自ら先頭にたって話したり、声をかけてサポートしたりすることができた。 ○高校の友人だけでなく、積極的に小中学生と一緒に遊んだり、活動したりして親睦を深めることができた。

成果と課題

○中学校の生徒会が主体となり、細かな配慮のもと動いてくれてとても助かった。転入職員の紹介をシンプルにして、レクレーションの時間を長く取れて良かった。また、異校種との交流もレクレーションを通して昨年度より活発だった。小学生のことを考えてトイレの時間も小まめに挟んでいて良かった。

▲お菓子の交換があったので、食物アレルギーに対応するため、交換を禁止するならするで徹底した方がよい。

中高合同体育祭

(中・高) 全

キャリア教育の視点から身に付けさせたい基礎的・汎用的能力

人間関係形成・社会形成能力

- (中) 高校生のリーダーシップのもと、協力して体育祭を成功させようとする態度を育てる。
- (高) 率先してリーダーシップを取り、中学生と協力して明朗で気品ある体育祭にする。



たくましさの育成

主体的行動		他者に働きかける力		
	具体的な姿	成果と課題	具体的な姿	成果と課題
小				
中	主体的に準備、練習、出場種目に取り組み、与えられた係の仕事は責任を持って果たす。	○体育祭テーマ決めや応援旗制作に意欲的に取り組んだ。応援旗は中学生のみで制作した。 ○練習にも主体的に取り組む、係活動も役割を自覚して行動できた。	先輩や仲間と協働しながら、準備・練習、演技や係活動ができる。	○練習前、練習後に中学生だけのミーティングを実施した。副実行委員長が練習のめあて設定を行い、練習後は振り返りを行うことで、協力して体育祭を成功させようとする雰囲気を作り上げた。
高	競技や応援合戦の練習に主体的に取り組む、より良いものにするために自分の意見を持ち、議論をすることができるようにする。	○競技や応援合戦の練習を通して、気づきや改善策などを共有しながら行うことができた。限られた時間の中で、やるべきことに優先順位をつけながら練習計画を立てることができた。	リーダーとしてダンスや演舞を中学生に分かりやすく教えることができる。	○事前に振り付けを考え、練習用動画を撮影するなど準備をきちんと行うことができた。合同練習開始時には振付を覚えた状態でのぞみ、教えることを中心とした活動内容にすることができた。

成果と課題

- 熱中症対策として今年度より開催時期を5月に移動したことで、例年に比べると体調不良者数は減少した。
- ▲5月開催は新年度が始まって間もない時期であることや大型連休明けの時期であることを踏まえ、心身両面の健康に十分配慮したうえで生徒の健康観察を行い、活動を進めていく必要がある。

小中高合同海浜清掃

(小中高) 全

キャリア教育の視点から身に付けさせたい基礎的・汎用的能力

人間関係形成・社会形成能力

(小) 清掃活動を通じて地域の環境の実態を知り、環境保全への意識を高める。

(中) (高) 清掃活動を通じて地域の環境の実態を知り、環境保全への意識を高め、環境保全活動を進んで行う態度を育てる。



たくましさの育成


主体的行動

他者に働きかける力

	具体的な姿	成果と課題	具体的な姿	成果と課題
小	自分たちの町をきれいにするためにごみを進んで片づけようとする。	「来た時よりも、海岸がきれいになってうれしかった。」「自然界のごみもあれば人が捨てたごみもあったので、ポイ捨てをしないように呼びかけたり、清掃活動に進んで参加したい。」という感想があった。 自分たちで、町をきれいになりたいという気持ちが表れており良かった。環境を守っていくという意識が芽生えていた。	仲間と協力して、清掃活動を行うことができる。	○「中学生、高校生と協力してゴミを拾うことができた。」「同じ班のメンバーの名前を覚えることができた。」「ゴミの分別を相談しながら、活動したことでこれからより分別してゴミを捨てようと思った。」という感想があった。 活動の中で、他校種の仲間と協力して海岸をきれいにしてよという意識が高まった。
中	自分たちの町のごみの現状を知り、自分たちの町の自然を守るために率先してごみを拾ったり片づけたりする。	○清掃の中で、ゴミの種類を考えながら、美しい小値賀の自然環境を守っていききたいと考えることができた。 ○高校生を見習い、小学生に対してどのように接していくかを考え、行動にうつすことができた。	仲間と協力して、清掃活動をすることができる。 小学生をリードしたり、高校生の指示をよく聞いたりして、積極的に活動することができる。	○高校生の適切な指示を見て、先輩方への憧れを抱き自分たちも行動に表すことが必要であると感じるようになった。 ○高校生への感謝の気持ちを伝えることができた。 ▲もっと積極的にコミュニケーションをとるべきだという場面もあり、来年度以降意識していきたいと考えている生徒もいた。
高	地域環境の実態と社会問題に関連付けて考えることができ、その解決へ向けて動き出そうとする。	○ゴミの種類、量について考える時間を設けることで、小値賀の環境問題への理解を深め、自分たちに何ができるかを考える契機になった。 ○役場の協力もあり、地域との連携を意識した活動にすることができた。	小中学生を上手くまとめ、全員が協力しながら清掃活動ができるように導くことができる。	○班員とのコミュニケーションを意識して清掃を行うことができた。 ○炎天下の中ではあったが、班員の体調に留意しながら進めることができた。 ○人数が少ないため、3年生だけでなく1・2年生もリーダーとして動くことができていた。

成果と課題

○小中高すべての校種で、ゴミの種類や分別についての感想があがった。清掃活動をきっかけに、自分たちが育つ街の環境やそれに対する自らの関わりについても考えることができている、地域に根差した活動となった。
○高校生がリーダーシップを発揮して指示を出す中で、中学生は小学生に対する働きかけを、小学生は自分ができていることを考えて行動することができた。異年齢間の活動においてコミュニケーションの重要性に気づく活動となったため、次年度は関わり合いをより深めたい。

心の教育講演会				(小中高) 全	
キャリア教育の視点から身につけさせたい基礎的・汎用的能力					
人間関係形成・社会形成能力					
(中高) 他者とのコミュニケーションに必要な心の働きを学び、コミュニケーション能力の向上を図る。					
たくましさの育成					
主体的行動			他者に働きかける力		
	具体的な姿	成果と課題	具体的な姿	成果と課題	
小					
中	他者とのコミュニケーションスキルを理解し、相手に伝えるような表現の仕方を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ どういう思いで相手と関わっているか、『自分の思い込みや決めつけ』が言葉に出さなくても非言語の部分で相手に伝わっていることを知り、今までの自分を振り返りながら相手との関わり方を改めて考えることができた。 ○ 「聞く」際の、「間を置く」、「相手に調子を合わせる」といった具体的なスキルを用いて、実践的な対話を体験することができた。 	学んだスキルを用いて、他者とコミュニケーションをとり、今後の生活に生かそうとする気持ちを高めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高校生や異学年とのペア活動を通して、普段関わらない相手とも対話を重ねることで、様々な考えの人がいることを実感し、より良いコミュニケーションのあり方について体験することができていた。 ○ 普段は大人しい生徒も、自分の気持ちを伝え、相手から返ってくる反応に、他者と対話を楽しむ様子が見られた。 	
高	人間関係の構築のために、他者の考えを理解し、自己の意見を表現できるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 傾聴やあいづちなど、テクニックを交えながら相手の話を受容することができた。 ○ 他者との対話をきっかけに、自己対話を行うことができた。自分の内面を振り返り、言葉を考えながら話す姿が見られた。 ○ 講演後の日常生活で、「講演会で学習したので、話す・聞く態度に気をつけたい」という発言があった。 	他者の考えを理解しようと努めつつ、自己の考えを伝えることで、よりよい人間関係を構築することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「どのような態度であれば、話し手が話しやすくなるか」という目線で、聞き手の理想的な態度を再確認し、実践することができていた。 ○ グループワークでは、他者を巻き込みながらの話し合い活動ができており、積極的に互いを受け入れようとする姿勢が見られた。 	
成果と課題 <ul style="list-style-type: none"> ○ 講師の先生に昨年度から継続して来ていただいたことで、昨年度の学び（自己対話）をふまえて、より実践的なコミュニケーション活動を行うことができた。 ○ 校種や学年を越えて一人の人間としてペアで自分の考えを伝え合うことで、それぞれの意外な一面を知ったり、いろんな考え方があることを実感したりする大変貴重な機会となった。 ○ 『自分の中の当たり前』がお互いに違うことを学び、具体的なスキルを用い対話活動では、普段関わらない人と対話を重ねることで、様々な考えの人がいることを実感する機会となった。今後も生徒の意識を保つために、継続して職員が声掛けを続けていく必要がある。 					

小中高合同持久走大会

(小・中・高) 全

キャリア教育の視点から身に付けさせたい基礎的・汎用的能力

人間関係形成・社会形成能力

(小) 長い距離を走ることで、持久力や忍耐力の育成を図るとともに、目標に向かって取り組む強い意志を育てる。

(中高) 後輩達に適切な声かけを行い、練習する主体性、共に目標を達成しようとする協働的な気持ちや態度を養う。



たくましさの育成

主体的行動

他者に働きかける力

	具体的な姿	成果と課題	具体的な姿	成果と課題
小	目標を立て、それに向かって努力を積み重ねようとする。	○休み時間に「小値賀一周マラソンマップ」を使用し、進んで練習に取り組む姿があり、自分の目標に向かって努力を積み重ねることができた。また、本番では自己ベストを更新する児童が多かった。	友達目標を知り、ともに達成できるように励ますことができる。お世話をしてくれる中学生や高校生に感謝の気持ちを持つ。	○「休み時間に友達を誘い合っ一緒に走ること、楽しく走ることができた。」「記録を取ってくれた中学生高校生のありがとうの気持ちを伝えることができた。応援も頑張った。」という感想があった。中高生の走りを見て、一生懸命頑張る姿に憧れを持ち、来年も頑張ろうという気持ちを持つことができた。
中	自分の目標を達成するために活動を工夫し、進んで走ろうとする。	○様々な練習方法を学習し、自分の目標達成に向けて、練習計画を立てることができた。粘り強く練習に取り組むことで、多くの生徒が目標を達成することができた。	下級生に優しく声をかけ、お互いに困難を乗り越えようと励まし合うことができる。	○きつい練習も仲間と声を掛け合い、励まし合うことで、粘り強く走ることができた。小中高合同練習では、小学生を伴走しながら、優しく声掛けする姿が見られた。
高	自己に適したペースを維持して、タイムを短縮するために主体的に取り組むことができる。	○毎回の持久走練習を通して心拍数やタイムの測定を行うことで、自己の身体について深く理解することができた。また自己数値目標を設定し、練習前と後での自己の変化にも気づくことができた。	各班のリーダーとして班員の健康観察を行い、練習に取り組むことができる。	○多くの生徒が各班で高校生1人の振り分けとなっていたが、十数名の小中生の健康状態をきちんと把握したうえで、練習の内容を決め、実施することができた。

成果と課題

○第3回大会となる今年度から10月開催に変更した。天候不良により1日順延となったが、秋晴れの中、大会を実施することができた。小学生は時間走、中高生はロードレース(2km)を実施した。中高生は小学生の時間走の記録係として、小学生の頑張りを支えた。小学生は中高生が懸命に走る姿に大きな声援を送り、中高生への「憧れ」を抱くことができた有意義な大会となった。

▲課題としては、合同練習の時間確保や練習内容の充実を図ることである。小中高生の絆がさらに深まる合同行事にしていきたい。